

# 集会決議

東京電力福島第一原発重大事故から6年が経ちました。福島と周辺県等の広大な地域が放射能で汚染され、多くの人々が放射能と向きあう生活を強いられ、今なお約8万人が避難生活を送っています。

政府は、年20mSvの被ばく基準で避難指示を解除し、賠償を打ち切り、区域外避難者への住宅費支援も打ち切ろうとしています。避難者は帰還か否か、苦渋の選択を迫られています。政府と東電が事故の責任を取ろうとしない中、被害者はそれぞれの「フクシマ」を抱え、憤り、苦悩し、葛藤しています。

事故はいまだに収束していません。汚染水問題は解決できず、廃炉は困難を極め、コストも膨大となり先が見通せません。過酷な環境での収束や廃炉作業で、労働者は一層の被ばくを強いられるでしょう。

その一方で政府は「フクシマ事故」を過去のものにして、国民負担で東電の救済と原発の延命をはかり、原発の再稼働や輸出を進めようとしています。しかし、東芝など原子力メーカーは経営危機に陥り、電力自由化の下、大手電力会社は新電力との競争を迫られています。また、原子力推進体制は「もんじゅ」廃炉を余儀なくされたにもかかわらず、懲りずに打ち出した新高速炉計画では、フランスのアストリッド計画に肩入れし、実証炉をめざす巨大プロジェクトを推進しようとしています。今こそ再処理をはじめ核燃料サイクル政策を転換させ、エネルギー政策を脱原発へ転換させる重要な時期です。

熊本や鳥取県中部など多発する直下型地震は、原発重大事故の危険を警告しています。若狭の原発が再稼働され、重大事故が起これば、多くの住民は避難できず、被ばくさせられ、近畿一帯は居住不能地域になってしまいます。若狭の原発は地震に耐えられず、動かしてはなりません。

世界の流れは脱原発です。アジアでも、台湾が最近原発の完全廃止を決めました。日本でも国民の過半数は再稼働反対です。フクシマを繰り返してはなりません。全ての原発を停止させ、脱原発社会へ進みましょう。再生可能エネルギーへの転換を進めましょう。

- ・ 高浜3・4号炉をはじめ、すべての原発の再稼働を止めよ！
- ・ 「もんじゅ」廃炉を機に核燃料サイクル政策を転換せよ！
- ・ 核のゴミをこれ以上増やすな！ 使用済み核燃料中間貯蔵施設を建設するな！
- ・ 福島事故関連費を電気の「託送料金」へ転嫁するな！ 東京電力を破産処理し、国の責任で事故処理と被害者救済を行え！
- ・ 国は被害者を切り捨てるな！ 20mSv基準で一方向的に帰還を強制するな！ 区域外避難者の住宅費支援を続けよ！
- ・ すべての被害者の基本的人権を守れ！ 十分な補償と医療・生活全般にわたる保障を行え！
- ・ 事故収束作業員の被ばくを低減せよ！
- ・ 日印原子力協定を破棄し、原発輸出を止めよ！
- ・ 脱原発を決定し、再生可能エネルギーへ転換せよ！